

講義名	基礎技能B（数的処理・文章理解）			授業形態	
担当教員	富岡 敦基	開講期・曜日・時限	前期 水曜日 5 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

### 主題と概要

【目的】  
基礎技能Bは、公務員を目指す学生を対象とする「公務員試験プログラム」に位置づけられる公務員試験対策科目である。  
2年生対象の基礎技能B（数的処理・文章理解）は、公務員試験における教養科目の一般知能分野である数的処理と文章理解を基礎から無駄なく実践レベルまでレベルアップすることを目的とする。  
授業内では初回と比較して最終回での理解度ならびに平均点を20%アップすることを目標とする。  
もっとも公務員試験合格には、当授業を履修するだけでなく、自学自習が前提であることは言うまでもない。

【内容】  
公務員試験で必要となる「基礎能力」に関し、幅広く「講義」と「演習」を実施する。頻出問題を確認していくことで、近年の公務員試験の傾向を把握していく。  
また、「公務員試験受験に向けて、自習の方法や試験制度、職種なども学ぶ。  
なお、小テスト(5問)を第3回、6回、9回、12回、15回に実施する。

【意義】  
講師との対話を通じて進められる本授業の意義は、受講生が、本学がディプロマポリシーで掲げる「論理的思考力」「情報収集力」「情報分析力」「課題発見力」「構想力」を着実に身につけることができることにある。  
また、公務員という明確の目標に向けて、コツコツと宿題をこなしていくことによって、「ネアカのびのびへこたれず」の精神を養うことができることにも大きな意義がある。

### 到達目標

- ・教養科目の核となる『数的処理』『文章理解』を解くことができるようになる。
- ・毎週の宿題と講師のアドバイスを通じて、自学自習の習慣を身につけることができるようになる。

なお、以上の目標に到達するため、本授業は講師と受講生のコミュニケーションを重視する。そのため教室における対面授業で実施する。

### 提出課題

- ・毎授業時に練習問題を出す。
- ・公務員試験勉強には日ごろの自習が求められる。宿題を通じて、自分のペースに合わせた学習習慣を身につけてもらいたい。

### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

練習問題は授業中に講評・解説を行う。  
第3回、6回、9回、12回、15回に実施する小テストに関しては各個人の点数、クラスの平均点をFBシートで返却する。

### 評価の基準

小テスト（5回×5問＝25問）〔50%〕と受講態度（課題の提出〔15回〕等）〔50%〕の割合で評価する。

### 履修にあたっての注意・助言他

試験期間に試験は行わず、成績は授業期間内で全て評価される。毎回出席すること。  
受講態度が悪い場合には、減点する。  
また、最初の授業時に学ぶ科目のテストを行い、その時点でどれくらい問題が解けるかや苦手範囲を確認し、15回の授業を通して解けるようにする。

【履修に際して】  
必ず4限の自然科学・人文科学と5限の数的処理・文章理解 をセットで履修をしてください。

【基礎技能Bへの編入について】  
基礎技能Bに途中から参加するには、2年前期編入可能です。  
1年後期（10～11月）にガイダンスを実施するので、編入希望者は必ず参加して下さい。

### 教科書

.2025年度版地方公務員 寺本康之の超約ゼミ 大卒教養試験 過去問題集 .	寺本康之・松尾敦基	実務教育出版	1760	9784788977945
--	-----------	--------	------	---------------

### 参考図書

.なし.				

### その他

4限（自然科学・人文科学）と同じ教科書を使用するので、4限・5限をセットで履修する際は5限としての教科書購入の必要はありません。  
必要に応じて資料を適宜配布する。

### 授業計画

1. 数的処理 : 公務員ガイダンス・数と式の計算
2. 数的処理 : 方程式・不等式的应用
3. 数的処理 : 場合の数・確率
4. 数的処理 : 図形
5. 数的処理 : 集合・論理・暗号
6. 数的処理 : 対応・順序・位置
7. 数的処理 : 数量関係からの推理
8. 数的処理 : 平面図形
9. 数的処理 : 立体図形
10. 数的処理 : 資料解釈・数表
11. 数的処理 : 資料解釈・グラフ
12. 文章理解 : 現代文・要旨内容把握
13. 文章理解 : 現代文・空欄補充・文章整序
14. 文章理解 : 英文・要旨内容把握
15. 文章理解 : 英文・空欄補充・文章整序

### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

### 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：それぞれの回の実施内容（全体把握）を予習すること（2時間程度）。  
復習：講義内で実施した範囲の問題演習を繰り返し、3回以上は解くこと（2時間程度）。  
公務員採用試験対策においては、問題演習を繰り返し解くことが重要である。  
自学自習をすることで、授業で学んだ知識を定着させましょう。

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本授業の目標は、本学のディプロマポリシー（5項目）と以下の点で関連する。  
・公務員採用試験に向けて、教養科目の核となる『数的処理』『文章理解』を解くことができるようになる。  
知識を知恵に転換することができる。論理的思考力を持った人材  
・毎週の宿題と講師のアドバイスを通じて、自学自習の習慣を身につけることができるようになる。  
自主・自立の精神を持った人材

### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

理解度確認表・キャンパスクロスを活用し、不明点や確認事項を学生と講師間で共有する。

### 実務経験の有無及び活用

### 備考